

平成28年度研究紀要発刊に寄せて

山梨県総合教育センター

所長 深澤 眞悟

教育は、児童生徒の自立、そして一人一人が豊かで安心して暮らせる社会が持続的に成長発展していくために大きな貢献をしてきています。知識基盤社会では、新しい知識・情報・技術の急速な変化があり、そしてグローバル化により急激に社会は変わりつつあります。教育界も、多くの今日的課題に直面し、さまざまな対応と改革が求められています。これからの子供達が生きていく世界にあっては、どのように学び、どのように活用し、どのように協働し、どのように探究するのか、新たな知や価値を創造する能力が求められています。

社会変化の激しい未来で「生き抜く力」を身につけさせる学校の役割はますます重要になっています。「教育は人なり」で、まさに教職員一人一人の力や学校の組織力を向上させ、これらの諸問題を解決することが求められています。本センターでは「学校教育を支援する確かな情報発信源」を基本方針に掲げて、指導主事に職名変更し、研修会、研究開発、児童生徒・保護者等への相談支援、ICT支援等様々な業務を充実させ、学校支援に取り組んでいるところです。

さて、平成28年度の研究につきましては、「学校教育を支援する実践的研究—確かな学力の育成を目指して—」をテーマに、「学力向上に資する教科及び領域の研究」を小中高31校の研究協力校と34名の研究協力員とともに、「プロジェクト研究」「主事研究」において、教科では一主事一研究を、領域ではグループ研究を行いました。各設定主題に沿って、授業モデルの開発、活用しやすい教材の作成、検証授業の実施とその授業公開を中心に据え、授業研究を県内の多くの先生方に関わっていただけるように工夫しながら、今日的課題や学校現場のニーズに沿った具体的な成果を提供することを目的に研究を進めて参りました。教科の研究におけるキーワードは、言語活動、思考力・判断力・表現力、単元設計、ICTの活用、アクティブ・ラーニング、汎用的ルーブリック、パフォーマンス課題、探究活動、プログラミング教育等です。また、教育相談・特別支援の領域では、いじめ、不登校、特別支援教育、連携、学習障害、合理的配慮、支援、自立等で、教育実践課題のわかりやすい事例分析に努めました。

今年度の研究の締めくくりにあたり、研究成果を「研究紀要」として公刊することとなり16研究主題について論文を収録いたしました。本編の他に資料編としまして授業プラン、教材、ワークシート等は本センターのホームページからダウンロードできますので是非御活用ください。これらの内容が日々の教育実践の参考になりますようお願いとともに、御高覧の上、今後も学校のニーズを反映した研究を進めるために御助言をいただければ幸いです。

結びに、調査・研究に御協力いただきました皆様、専門的立場から御指導をいただきました山梨大学の先生方をはじめとする関係機関の皆様に心より感謝と御礼を申し上げます。